

林小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①学習意欲の向上と「自ら考える力」「関わる力」「やり抜く力」の育成
- ②基礎基本の定着と活用する力の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員

校長

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題)   | 具体的目標(目指す子供の姿)  | 具体的方策(教員の取組)  | 中間期の見直し   | 達成状況(評価)  | 次年度における改善事項  |
|--|---|---|---|---|--|
| ○基礎的・基本的な知識・技能を身に付けようと、漢字や計算練習を繰り返して取り組むことができる児童が多い。<br>●既習内容が定着していない児童がおり、学習内容の定着を図ることが課題である。<br>漢字を文の中で正しく使ったり、計算の意味を理解したりする力が乏しい。 | ①正しく漢字を書いたり使ったり、速く計算したりするなど学習を支える基礎的・基本的な知識技能を身に付けている。<br>②語彙を増やし文章を読み取ったり既習の言葉を使って文章を書いたりすることができる。 | ①-1 週一回は「漢字ミニテスト」や「計算にチャレンジ」を実施したり補充プリントを活用したりして、復習する機会を増やす。<br>①-2 日記や作文等、生活の中で漢字を積極的に活用し推敲していくことで既習漢字の定着を図る。<br>②-1 文章の内容を読み取る力の育成を図るために、朝の活動で本や子ども新聞等を活用し、文章問題に取り組む時間を設ける。<br>②-2 読み聞かせや視写、群読などの活動を通して、用例や類似表現を知ったり国語辞典を効果的に活用したりして言葉への理解を深める。 | ①-1 「漢字ミニテスト」「計算にチャレンジ」は定期的の実施しており、復習する機会の確保につながっており、今後も継続する。<br>①-2 日記や作文の中で既習事項を使って文章を書くことが不十分である。<br>②-1 毎日の「読書タイム」の読書時間を継続して実施する。<br>②-2 視写や群読など学年の実態に応じて、バリエーションを増やして継続的に実施している。 | ①-1 全学年において「漢字ミニテスト」「計算にチャレンジ」を定期的の実施した。日々の練習の積み重ねが単元テストの平均点向上につながっている。<br>①-2 知識として定着していても、普段の日記や作文の中で漢字を使うことができていなかったことが課題である。<br>②-1 「読書タイム」を毎日実施したことにより、読書習慣が身についた。教科書外の読み物として「文章問題プリント」にも定期的に取り組んだ。<br>②-2 視写や群読、暗唱など、定期的の実施したことにより文字を丁寧に書いたり使える用語が増えたりし、言葉への理解を深めることができた。 | ・学年の実態に応じて、計算カトレーニング等、練習機会の確保を十分にとる。<br>・継続的に実施したことにより「書く」活動の一定の成果はあったが、作文指導を発達段階に合わせて目的意識をもって系統的に取り組む。<br>・読書タイムとチャレンジタイムの有効活用を図り、語彙力の向上を図る。<br>・引き続き、漢字や計算の反復学習に取り組んでいくが、プリントやドリルだけでなく ICT も効果的に取り入れていく。 |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題)   | 具体的目標(目指す子供の姿)                        | 具体的方策(教員の取組)  | 中間期の見直し   | 達成状況(評価)   | 次年度における改善事項  |
|--|---------------------------------------|---|---|--|--|
| ○ペアやグループでの話し合いでは、自分の考えを伝えることができるようになってきている。<br>●自分の思いや考えを根拠を明らかにしてまとめ、伝えたり書いたりすることに苦手意識を持っていたり、話し合いの方法が分かっていない児童が多い。 | ①自分の意見や考えを根拠を明らかにして話したり、書いたりすることができる。 | ①-1 授業のめあてを明確にし、児童自らが課題解決の方法を学年の発達段階に合わせて身につけ、効果的に活用する。<br>①-2 説明の仕方や話形を提示したり考え方を図式化したりして活発な話し合い活動をすすめる、伝え合う場を設定する。<br>①-3 日記や原稿用紙を用いた作文指導の充実等、自分の思いを書く時間を十分確保し、系統的にすすめる。 | ①-1 振り返りの時間を設けることができていない。振り返りの時間を確保する。<br>①-2 説明が上手な子どもたちがモデルとなって、活発な話し合いが進むようにしていく。<br>①-3 学年によって取り組み具合に差異が生じているので、すり合わせをしていく。 | ①-1 ペアやグループ活動により自信をもって話すことができるようになった児童が増加した。<br>①-2 学年に応じて、絵や図を使って自分の考えを表現することができた。<br>①-3 テーマや用語の指定をしたり週末の出来事を書いたりして継続的に作文指導を続けることができたが、回数や評価のポイントにばらつきがある。 | ・「書く」活動に関しては、大きな成果があったといえるが、次年度は「聴く」トレーニングを積極的に取り入れて、話を聴いて、アウトプットできる児童の育成に取り組んでいく。<br>・スピーチや学級会などで伝え合う場を多く設定してきたが、各教科等で培われた力が活かしきれない現状がある。学級会等で身についたスキルを活かせる場を設定したり話形などを提示したりする。 |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題)   | 具体的目標(目指す子供の姿)  | 具体的方策(教員の取組)  | 中間期の見直し   | 達成状況(評価)  | 次年度における改善事項  |
|--|---|---|---|---|--|
| ○授業では、真面目に取り組む、与えられた課題には一生懸命取り組む。<br>●自らの課題を見つけて工夫して解決しようとしたり、粘り強く取り組もうとしたりする意欲が乏しい。自尊感情が低い。 | ①学ぶ楽しさや喜びを感じ、学習に前向きに取り組むことができる。<br>②自ら進んで自主学習や課題に意欲的に取り組むとともに、自分にはよいところがあると肯定的に捉えることができる。 | ①-1 個別に応じた課題学習や児童主体の授業を効果的に取り入れ、成果物を保護者に評価してもらい、自己肯定感を高めていく。<br>①-2 学級での学びや児童の活動の様子を学級便りで発信する。<br>②-1 「校内自主勉強コンテスト」「漢字検定」を実施し、自ら目標をもって学習に取り組むことができるようにする。 | ①-1 児童の学習定着具合に応じた課題を用意し、スモールステップを図る。<br>①-2 学級便りの内容の改善を図る。<br>②-1 自主学習ノートの取り組みは、する児童とそうではない児童との二極化が課題である。また | ①-1 課題を達成する喜びを感じる機会が増加したことにより、自信をもつ児童が増え、前向きに落ち着いて学習に取り組むことができるようになった。<br>①-2 各学年、学級便りを事務的なものから児童の頑張りの様子を定期的に具体的に発信することにより、保護者との連携を強固にすることができた。<br>②-1 自主勉強コンテストの期間に限 | ・職員全体で話し合い、児童が輝ける場の設定を進めていく。また、そのような活動を引き続き学校内外に発信していく。<br>・目的意識・相手意識をもった学習内容を取り入れ、表現力の育成を図る。<br>・「漢字検定」の受検者が減少傾向に |

|    |   |   |  |  |
|----|---|---|--|--|
| る。 | ②-2 異年齢交流(ペア読書・学習成果の発表等)を積極的に実施し、表現活動の機会を増やすことで、コミュニケーション力の育成をすすめる。 | 取組みの熱量が学年によって差がある。<br>②-2 異年齢交流の機会を計画的に進めている。 | らず、継続的に自主学習に取り組む児童が増えた。<br>②-2 異年齢交流を積極的に取り入れ、高学年児童は有用感をもつことができ、自己肯定感を高めることができた。 | あるため啓発活動に取り組む。<br>・全学年対象の特別活動が盛んである為、異年齢交流を取り入れる時間とのバランスを考慮し、計画的に実施する。 |
|----|---|---|--|--|

**令和6年度 学力向上ロードマップ**

